

参加者：
秋元、在原、伊藤、内山、
小海、斎藤、田中、土田、
中島、安田、山岡、吉野、

BMW RS CLUB

May 13~14, '06

雨に煙る西伊豆「雲見温泉」
での恒例一泊旅行顛末記
かわらばん 中島邦雄 挿絵；小倉玲子

5/13-14

かわらばん

五月場所を告げる触れ太鼓が、初夏の風に乗って爽やかに大川端を流れ、これまた初夏の風物詩の一つ、神田祭と三社祭の提灯(ちょうぢん)が軒先に下がり、神樂囃し(かぐはなし)の音と共に、神輿(みこし)を担ぐ掛け声が下町中に響き渡る頃となりました。そして月末には浅草お富士さんの植木市が始まります。例年ならばこうなると東京の街々はもう初夏の訪れの筈なのです。ところが今年はどうしたことか走り梅雨を思わせる日々が続き、バイクを磨いては空を見上げ、ため息をつく毎日が続っています。四月のツーリングも午後から雨の予報通りで流れ、私はそのうっぷん晴らしに、東京ビッグサイトで開催中のバイク・ショーを見に行きました。考えることは誰もが同じか、会場で会長の北島さんとバッタリ合い「なんだよ～」とお互いに大笑い。

そして今回はお待ちかね五月の西伊豆「雲見温泉」への一泊ツーリングを迎えるました。本来ならば目に染みるような箱根の青葉若葉を愛でつつ下田へ下り、毎度お馴染み「いし塚」で昼飯に旨い蕎麦をたぐり、腹ごなしにマーガレット・ラインで雄大な西伊豆の海岸線を快走するのも楽しみの一つでした。夕日の沈み始める頃の此処の景色は、本当に誰もが目を見張ります。そして小柄な海ツバメの飛び交う目的地の宿に着くと、温泉と海の幸が我々の到来を待っている筈になっていました。

ところが恐いかに何日も前から何度インターネットを見ても、当日の土~日は西の方からず~と雨のご託宣ではありませんか。出る時には晴れていて、帰りになって降られるのなら諦めもつきますが、出る時から雨では磨き上げたバイクに合羽を着て出る気には到底なれません。誰だか知りませんが余程平素の行いの悪い人がクラブに居るようです。そこで仲間と誘い合わせ「時にはこんなもの良いね～」とかなんとか負け惜しみを言いながら、久々に何台かの車に分乗して行く手筈となりました。

当日は夕方から雨の予報が朝からしっかりと雨になりました。出しながらこうなれば諦めもつこうというものです。Wing Roadの新車で斎藤さんのお迎えを受け、伊藤、中島、安田の四人で集合地の東名「海老名SA」に向かいました。天気が悪いからか連休で金を使い果たしたか、道路はガラガラでしたが雨の上に気温が下がり、長袖の恋しい初冬の感じとなりました。お上に免許証を返上した(させられた?)内山さんが、土田さんと一緒にCelsioで、小海さんはデリカ・パン、吉野さんはベンツに乗って各々一人で現れ、田中さんと山岡さんが、角度によりいろいろな色に見えるAlfa Romeoで到着しました。そんな中でただ一人在原さんだけが、HP2という世界に300台程しかないという、BMW特別限定車で雨の中をバイクで登場です。我々には普通のオフ車に見えましたが、彼の説明によるととても軽量で殆どのパーツも特別仕様だそうです。日本での入手も困難な上に値段も¥200万円とか。折角の新しいスーパー・バイクが雨に打たれて痛々しく見えました。

「RSクラブと言るのはバイクのクラブじゃないんですか?」という彼の言葉に大笑いをしながら、9時40分に各々が雨の中を最初の休憩地、箱根ターンパイクの「亀石峠」に向かいました。黄色いカッパ姿の在原さんが所々で見え隠れしていました。「小田原厚木道路」を走っていると大磯を過ぎた辺りで、例年のように今年も薄紫色の桐の花が雨の中にきれいに咲き、季節の移ろいを感じさせられました。近くに見えて遠くにある花で“目にについて必ず遠し桐の花”と言う句がありました。ターン・パイクの崖沿いの道には、白いガクアジサイのような花を付けたヤマボウシの木が、霧にかすんで見えました。10時35分に熱海峠に到着です。周囲は霧に包まれこの霧で、途中の「湯河原パークウェイ」を上がって来る車も見当たらず、去年も深い霧の中での休憩だった事を思い出します。五月晴れの言葉とは裏腹に、この頃は天候が不順なのかも知れません。10時55分に「亀石峠」でトイレ休憩後、後学の為に例の抜け道の出口を再度確認し、冷川峠で一般道に降り霧雨の中を「中伊豆バイパス」へ入りました。料金所の横には霧の中でも辺りが明るく見える程に、色々とりどりのツツジが見事に咲き誇っていました。ここで11時半となり出発から二時間弱が経過しました。車に揺られそろそろ腹がすき始める頃です。

蕎麦屋さんの予約が12時半でしたが、その間に下田の例の干物屋さんに着きました。雨が一段と強くなり急いでお土産を買って「いし塚」へ向かいました。時分時なのか大変な混み様でした。お母さんには全然似てない色白の姉妹の世話で、カモ焼山芋が擦り込んであると思われる蕎麦がきが運ばれ、運転をしないメンバーが恐縮しながら焼酎の蕎麦湯割りを飲みました。この店を覗覗(ひき)にする芸能人も多く、高倉 健なども度々やって来るそうです。せいろ蕎麦をさらさらと食べて仕上げをしたらもう誰もが満腹でした。女将さんから各自に、この店で出す香り高い七味をお土産に貰って出発しました。雨は時折強くなり海岸線のきれいな筈の景色も雨に煙っていました。そんな中をバイクで走るグループも居て尊敬しました。

四時近くに松崎町雲見に在る、今日の宿「浜道楽」に到着しました。此処にも先着の数台のバイクが並んでいます。暫くして一人で車で来て、途中の温泉に入ってきたという秋元さんも到着し、全参加者12人が勢揃いしました。海に近いからかやや塩氣のある露天風呂に入って手足を伸ばすと、ポツポツと雨が顔に当たりました。四階にある露天風呂の竹囲いの間から海が見通せて、如何にも海辺の温泉宿に来た思いがしました。海ツバメのさえずりも聞こえています。毎度のように安田さんが持参した「越の寒梅」で下地の出来た頃に宴会が始まりました。伊勢エビの入った立派な舟盛りが来ましたが、それは間違いで(キット料金の高い)別のグループの所へ運ばれ、我々にはイサキや小ぶりのエビ、ホタテとカツオの入った小さ目の盛り付けが並びました。「どうせ食い切れないよ～」という負け惜しみ?の声も聞かれました。陶板に生きたアワビを乗せバターで焼く残酷焼きや刺し身で飲みました。一日車にゆられ温泉に入ってお酒が一気に回った感じです。最後にモズクのおかゆで仕上げましたが、我々の鍋に残りの刺し身を入れたら極上の粥になりました。そしてその後はいつものように、この部屋でのカラオケが遅くまで続けられ、賑やかな中に伊豆の夜はふけてゆきました。

翌朝は殆ど雨も上がり外を見ると雲が流れ始め、雨上がりの周囲の緑が目にも鮮やかでした。早起きをして露天風呂に入ると、朝の澄んだ空気の中で磯の香りが僅かに流れて来ました。4~5人で朝食の膳について食べ始めると、配膳掛が慌てて我々のテーブルのみそ汁を集め始めました。伊勢エビの頭が顔を出す椀を我々は美味しく食べ始めましたが、それは間違いで残りの椀は小さなエビの入ったお椀に並べ換えられていました。昨夜からどうも他のテーブルと差がついています。どうやら雨は大丈夫そうで、一人だけバイクの在原さんを思うと、本当に人ごととは思えませんでした。彼が先ず出発し



田中さんと山岡さんの車が帰り、秋元さんが続きました。残り四台は一足遅れて雨上がりの海岸線を走り抜け、船原峠へ向かいました。此処から吉野さんがお勧めの修善寺に近い食事処へ電話を入れました。そこは季節外れと思われるカエデが真紅に色づいた、いかにもお忍びで来たくなるような洒落た造りのお店でした。ソバと釜飯が売物のようで、珍しいウナギの釜飯セットを楽しみました。釜にこびり付いたおこげを食べるのも久々でした。こんな山の中によくぞ見つけたと思われようなお店で、奇麗な庭がガラス戸の外に広がり時間が静かに過ぎて行く至福の一時を送って店を出ました。

「亀石峠」から伊豆スカイラインへ入り、御殿場に下って「二の岡フーズ」でお土産のハム等を買って解散となりました。

会長の北島さんが連休中に大観山で事故に遭い、背骨を傷めて暫くは入院中。町田さんはKTMで練習中に前方からの車を避けた際に転倒して足を折り、元気ながら松葉杖での生活とか。いくら気を付けていても相手の居ることです。くれぐれも安全に留意したいとろです。お二人の一日も早い回復とクラブ復帰を、会員一同心より願っています。